

皆さま方には、平素より市政運営にご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

マスク着用について、国の方針と同様、裾野市でも3月13日から、着用が個人の判断に委ねられることとなります。

市役所においても、原則として個人の判断となりますが、窓口対応時や混雑時、各部署が必要と判断した時は、職員に対してマスクの着用を求めることとします。

また、窓口のシールドや消毒液、体温測定は、しばらくの間、継続します。それでは、3月の月例記者会見の資料についてご説明申し上げます。

【市長】

資料No.1「病児保育事業」です。

4月から開始する病児保育事業について、ご説明いたします。

市では、現在、病気の回復期にある病後児を対象とした病後児保育を市内の保育園2施設で実施しております。

病後児保育事業に加え、病気の回復期に至っていない病児を対象とする病児保育事業を、国の子ども・子育て支援交付金を一部活用し、令和5年度から実施することとしました。

実施施設は、鈴木医院2階の病児保育室りんりん、定員は9人、開室時間は8時30分から17時15分、平日のみ対応します。

対象児童の利用料は無料として行います。

この事業が、子育て支援の一助となるよう進めてまいります。

詳細につきましては、こども未来課 根上 主査技師から説明します。

【こども未来課 根上 主査技師】

病児保育事業を担当しております、こども未来課の根上です。

病児保育事業を利用できるのは、保護者の勤務の都合など社会的にやむを得ない事由により家庭での保育が困難な、次のいずれかに該当する病児となります。病児とは、当面症状の急変が認められないが、病気の回復期に至っていないことから、集団保育が困難な児童のことです。

1つ目は、当市又は市と広域事務委託契約を締結している市町に住民登録があり、満6か月を超える乳児・幼児及び小学校に就学している児童です。

2つ目は、市内の保育所等に通所している、満6か月を超える乳児・幼児です。どちらの場合も、利用料は無料です。

対象外の病気は、新型コロナウイルス感染症、麻疹、水痘、結核、流行性角結膜炎、髄膜炎、疥癬(かいせん)です。その他、症状によっては医師の判断で利用できない場合もあります。

次に、利用手続きの流れについて、ご説明します。

利用にあたっては、事前登録が必要で、病児保育ネット予約サービス『あずかるこちゃん』で『病児保育室りんりん』の施設利用登録をしていただきます。登録承認が必要なため、利用日の直前に事前登録しても利用できない場合があります。利用の可能性のある人は、事前に登録をするよう周知していきます。

利用予約については、利用前日から『あずかるこちゃん』により予約が可能で、予約が確定したら利用者に LINE とメールで通知します。

利用当日は、実施施設に、利用申込書と医師連絡票を提出します。医師連絡票は、事前にかかりつけ医などの医療機関を受診して記入を依頼する必要があります。医師連絡票の発行に係る費用は、利用者負担となります。

当日の持ち物は、健康保険証や乳幼児(こども)医療費受給者証、お薬手帳などです。その他の詳細については、市公式ウェブサイトや施設のホームページなどに掲載します。

【市長】

次に、資料No.2「すそのロケフェスタ 2023」についてです。

ロケのまち「すその」を内外にPRするためのイベント「すそのロケフェスタ 2023」を3月に開催します。

当市ではロケ支援による直接的経済効果拡大を図るだけでなく、ロケ地やロケ支援作品を活用したまちのにぎわいづくり創出と裾野ファンを増やす取り組みを展開しています。

詳細につきましては、情報発信課 庄司主幹 から説明します。

【情報発信課 庄司主幹】

シティプロモーションを担当しております、情報発信課の庄司です。

私からは「すそのロケフェスタ 2023」について説明させていただきます。

毎年、ロケのまち「すその」を内外にPRするためのイベント、「すそのロケフェスタ」を開催し今年で第8回目となります。

本年度につきまして、市内にある爆破の聖地で行う

「1. カーアクション&爆破体験モニターツアー」と

昨年夏に市内をメインロケ地のひとつとして撮影された

「2. 映画『世界の終わりから』裾野市先行特別試写会」

の2本立てのプログラムで実施いたします。

まず、「カーアクション&爆破体験モニターツアー」は、市内葛山にある国内屈指のスタントチーム「タカハシレーシング」が保有するオープンスタジオ／オールラウンドV裾野で、タカハシレーシングさん全面協力のもと、旅行事業者や市内ロケ関連事業者、ロケに興味のある市民一般の方を対象(定員30人)でカーアクション乗車体験やナパーム爆破体験をしていただきます。爆破体験といえば、栃木県の岩船山や福岡県の筑豊地方では先行して行われていますが、さらに首都圏から交通アクセスのよい裾野市で今後開催していければ新たな当市の人気ツールになるかと期待します。

なお、体験の前にはスタント界のレジェンド、タカハシレーシング代表の高橋勝大(まさひろ)さんによる「スタントチームの仕事」について、解説、スペシャルトークをいただきます。

今後、このモニターツアー実施を契機として、爆破の聖地を旅行商品造成、ふるさと納税返礼品商品開発して全国に売り込んで行く展開を考えております。

つづきまして、映画『世界の終わりから』裾野市先行特別試写会につきまして説明させていただきます。

昨年夏、市内でもメインロケ地のひとつとして撮影された 2004 年、『CASSHERN』で監督デ

ビューし、『GOEMON』やハリウッド映画『ラスト・ナイツ』など数々の話題作を世に送り出してきた紀里谷和明監督 最新作かつ最後の作品となる映画『世界の終わりから』(4月7日全国劇場公開)の先行試写会を開催、100人を無料招待するものです。

上映前の舞台挨拶では、主要スタッフが登壇し、作品の見どころや市内口ケでの撮影秘話や裾野の魅力も語っていただく予定です。

どちらものイベントも沢山の方に知っていただき、ご応募、ご参加いただいて、さらに裾野ファンを増やしてまいりたいと存じます。

周知につきましてよろしく願いいたします。

次に、資料No.3 自動車の走行データを活用した「交通安全 EBPM 支援サービス実証実験」の成果についてです。

7月の月例記者会見にてお話しさせていただいた本市と地方創生に関するパートナーシップ協定を締結している「あいおいニッセイ同和損保株式会社」さまと行っている、自動車の走行データを活用した「交通安全 EBPM 支援サービス実証実験」の成果報告を受けましたので、説明させていただきます。今回の報告箇所は裾野市立東小学校南東に位置する都市計画道路どうしの交差点の検証です。この報告を受け本市としましては、当該交差点のさらなる安全性の向上、また、引き続きデジタルを活用し、さらなる市民の安全につなげて行くため、当該サービスの検証箇所を増やしていく考えであります。

詳細は、行政のデジタル化の担当課で、今回の危機管理、道路管理部門の取りまとめを行った戦略推進課長より説明します。

【戦略推進課長 説明】

次に、資料No.4「裾野市学校教育施設再編基本計画策定について」です。

全国的に少子化が進展する中、裾野市においても児童生徒数の減少と学校の小規模化が進んでいる状況であり、今後においてもこの傾向は避けられないものと考えられます。

学校の小規模化は、児童生徒一人一人の学習状況や学習内容の定着状況を的確に把握でき、きめ細かな指導が行いやすいという利点がある一方、学校における社会性の育成や学級編制・部活動・教職員の配置数に制約が生じるなど、教育環境の面で様々な影響を及ぼすことが懸念されます。

また、本市では多くの学校施設が昭和 40～50 年代にかけて建設されており、施設の耐用年数を鑑みると、何かしらの対策を取らずに引き続き施設を利用し続けた場合、今後の利用に支障をきたすことが想定されます。

この全市的な問題に取り組むために、令和元年度に裾野市の教育のあり方検討委員会を立上げ、教育に関するアンケート調査を基に、あり方検討委員会より令和2年3月に学校再編案3案を含む提言書が提出されました。

令和3年7月には裾野市学校教育施設再編推進本部を立上げ、市長部局と教育委員会が一体となって、裾野市学校教育施設再編基本計画策定に向け、業務を進めて参りました。

コロナ禍で、途切れた時期もありましたが、あり方検討委員会から頂いた学校再編案3案の提言

書を基に、約9か月間、全 88 回・計 1,000 人以上の保護者、地域、生徒に向けて行われた意見交換会での意見、教員アンケート、裾野市学校教育施設再編推進本部及び同検討委員会での協議内容を基に、外部の有識者で構成される学校教育施設再編審議会での諮問・答申を経て、ここに、『裾野市学校教育施設再編基本計画』が完成しましたので、基本計画の公表を行いたいと思います。

本日お配りしました、裾野市学校教育施設再編基本計画の 12 ページから具体的な再編計画・具体的な取組みとして5つの取組について触れています。

この具体的な取組について説明させていただきます。

なお、この計画は、15 年計画で、期間を前期・中期・後期と 5 年で区切っております。

① 向田小学校と東小学校の再編(統合)【前期における取組】

この取組はすでに発表し、動き出している事案ですが、令和7年度に向田小と東小との再編を進めます。校舎は現在の東小校舎を使用します。

なお、向田小の跡地については、現在の東中学校を移転します。向田小学校の閉校後、校舎の長寿命化改修や不足する特別教室の整備等を行い、令和 10 年度を目途に移転できるよう努めます。

② 富岡第二小学校と富岡第一小学校の再編(統合)【前期～中期における取組】

令和 9 年度を目途に富岡第二小学校と富岡第一小学校との再編を進めます。再編後の校舎は現在の富岡第一小学校校舎とします。

③ 須山中学校と深良中学校と富岡中学校の再編(統合)【中期～後期における取組】

単学級の解消とともに、生徒のニーズに応じた多様な部活動等の課外活動の充実を図るため、須山中学校と深良中学校と富岡中学校との3校の再編を進め(仮称)北中学校として整備します。再編校舎は現在の富岡中学校校舎を前提としながらも、敷地の拡張による新設も視野に検討します。

④ 須山小学校の小規模特認校制度の導入【中期における取組】

適正配置の観点から全市的なバランスを考慮した結果、須山小学校を存続させ、適正規模に近づけるため、須山小学校に小規模特認校制度を導入します。

小規模特認校制度とは、学校選択制の一つである特認校制を小規模校で実施するもので、従来の通学区域は残したままで、特定の学校について、通学区域に関係なく、市内のどこからでも就学を認める制度です。

特認校制度の導入に向け、地域・学校・教育委員会が連携し、須山小学校における学習の「特色」を地域も一体となって考え、見出し、再編前から魅力発信できるよう努めます。

⑤ 千福が丘小学校と富岡第一小学校の再編(統合)【中期～後期における取組】

千福が丘小学校と富岡第一小学校との再編を進めます。再編後の校舎は現在の富岡第一小学校校舎とします。

②、③、⑤については、学校再編により学区が広がることから、再編に伴う通学の足の問題については、児童や保護者にとって過重な負担とならないよう、スクールバス等の運行、既存路線バスの拡充、通学費の補助等、各学校の実情に合わせた通学方法を検討します。

また、通学区域の変更に伴う通学路の整備や各種団体と連携し、登下校時の安全確保に向けた取

り組みについても検討していきます。

③については、今回一番広域での再編であり、大きな中学校区が一つになることから、再編により須山地区・深良地区・富岡地区の歴史や伝統行事等を従前の地区を超えて学習・参加できる機会となることから、教育課程の中で広く学習できる環境を構築し、関わる人・文化・伝統が増えたことで、教育の幅が広がった、再編して良かったと全ての人が実感できるような学校再編になるように努めてまいりたいと考えております。

ここに裾野市学校教育施設再編基本計画が完成しましたが、この計画策定がゴールではなく、むしろこれがスタートだと考えています。

この先、地域や学校等に足を運び、皆さんに協力いただける体制を構築して初めて再編が動き出します。来年度以降も全市を上げて、学校再編事業に力を入れて参ります。

また、施設の再編計画は出来ましたが、学校教育をトータルで見た、教育ビジョン的な計画を添えて、市民や地域に理解を求めて行きたいと考えています。

結びに、小中学校の再編整備は、「児童生徒数の減少」と「学校施設の老朽化」という課題を解決するだけでなく、未来社会を担う子どもたちのための整備・投資であり、これまで「施設や設備」に費やしてきた支出を「人づくり」のための支出へ充当する、「床」から「人」への教育費の転換が目的であることを、改めてお伝えさせていただきます。

私からの説明は以上です。